

特集：入学

先生の言うことを信じちゃいけないよ

岩井 宏暁（筑波大学 生命環境系）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。フレッシュマンセミナーで皆さんの顔をみていると、私は本当に幸せな気分になっています。大学生としての新たな一歩を清々しい気分で送っているものと思います。私が15年以上前に筑波大学生物学類に入学したとき、平砂10号棟の3階に入居したのを覚えています。当時は五角形の部屋で、その先端に位置する窓から見えるテニスコートで誰かテニスをしている人がいれば、のんびりとコートにラケットを持って出かけるようなことをしていました。また、夜には仲のよい友達の前越17号棟の部屋に遊びに行ったりして、楽しいこと、気に入らないこと、将来のこと、本当にいろいろなことを語り合っていました。当時は大学にバイトにテニスにと一生懸命生きていた思いがありましたが、今となっては大学生1年生から3年生までの時期は、ある意味ゆったりとした時間でした。その大切な時間にいろんなことを考えたり経験したりしたことが、今の自分の大事なところを作っているように感じています。そのときの友人関係や経験は、今でも自分の人生を支えています。

私は高校生の頃から遊ぶのが大好きだったこともあるせいか、浪人をして大学に入りました。浪人生のときに初めてまじめに教科書に向き合いましたが、ある時、自分が納得できるまで教科書を理解や暗記を終わったときに、何とも渇きにも似た気持ちがあるのを感じたのを強く覚えています。教科書をいくら勉強してもそれ以上学ぶことができないのかと思ったわけです。そのため、大学に入ったとき、いくらでも知ることのできる学問の世界が広がっていたことは、大きな喜びでした。大学は学問をするためのスタートラインを与えてくれます。授業だけでなく、図書館にあるたくさんの学術書を漫画のように楽しく読みました。そして、3年生も後半になり研究室を選ぶときに、もともと農学部志望であった私は、当時講師であった植物発生理学研究室の佐藤忍先生に3年生の3学期からお世話になることになりました。研究室には、佐藤先生の先生の藤伊正先生がいらっしゃいましたが、ある時、佐藤先生がいらっしゃる目の前で、「岩井君、佐藤君の言うことを信じちゃいけないよ。教科書や本も読んじやいけないよ。」と、笑いながら心を込めておっしゃいました。一瞬、本当にびっくりしましたが、学問をするにあたっては柔軟な心と目で、教科書に書いてあることを鵜呑みにせず真実をみよ、先生の教えといえども自分で判断せよとアドバイス頂いたことが、心に響きました。実験しているとうまくいかないことがありますが、その中から新しい真実を見つけ、そして何かのせいにせず自分の責任で研究を少しでも行うことができたのは、このお言葉のおかげだと思っています。藤伊先生は、なにせ当時の高校の教科書を執筆された方であっただけに、非常に興味深いです。私は大学生の終わりの方になって、ようやく自分の目というものをもつきっかけを得ることができたのかなと思っています。大学1年生の皆さん

には、是非、曇りの無い目で自然現象をみて頂きたいと思います。自分の経験した大学時代を恥ずかしながら書いてみましたが、この中から皆さんが得るものが少しでもあれば嬉しいです。

最後に、私は大学に入って人生で最も大事な友人に生物学類で出会うことができました。しかし、今年の2月にその友人は妻と3人の子供を残して突然亡くなってしまいました。私の人生の中で、これほどまでに命の大切さを感じたことはありませんでした。みなさんを大切に思う気持ちを込めて最後に。。。私たち生物学類は生命について学んでいます。自分の命、人の命、そして生きている全ての命について大切に思う気持ちを大事に大事に心に持っていてください。みなさんの楽しい4年間が、実りの多いものになるのを楽しみにしています。



Contributed by Hiroaki Iwai, Received May 8, 2012.